「ＣＡＴＹ」の名前は、「ＣＡｍｐｕｓ」と「ｃｉＴＹ」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース　キャティ）

２０１９年７月　第129号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　矢口元晴

本年度特待生、奨学生は９人

学長から表彰状と奨学金

特待生・奨学生は、健康にして学業人物ともに最優秀・優秀な人物を顕彰することを目的とし、それぞれ奨学金が支給される制度です。

5月9日に本学で表彰式が行われ、受賞者は学長より表彰状及び奨学金が支給されました。

受賞者は次の9名です。

◆特待生▽国文学科　昼神紀信▽総合教養学科　宮本結衣▽幼児・児童教育学科　石川友理

◆奨学生▽国文学科　月岡さやか、田代史弥▽総合教養学科　松本葵、持増岳翔▽幼児・児童教育学科　山下慎太郎、明杖瑞紀

学生会会長として「ありす祭」を企画運営

仲間と連携し達成感

学生会会長になり、ありす祭（大学祭）を企画して運営する側になって、うまくいかないことが多くてやめたくなる時もありましたが、やり切ったいま、会長をやって本当によかったと思っています。

最初は何をどう進めていったらよいか分からなかったので、スムーズに学生会を進行させることができませんでした。しかし、前会長をはじめとする先輩や、学校の先生、支援課の方からアドバイスをいただき、だんだんうまくできるようになり、やりがいを感じながら楽しく会長をすることができました。

学生会のメンバーもお互いにフォローし合い、ありす祭が近づいていくにつれてチームワークが良くなり、一緒に頑張ることができたのでよかったです。わがままで頼りがいがなく、思いつきの行動ばかりする私でしたが、それでも学生会のメンバーが臨機応変に対応してついてきてくれたことにとても感謝しています。

ありす祭の反省が終わったいま、今度は次の代の学生会が始動します。彼らにしっかりと良かった点や反省の引継ぎをし、来年のありす祭をより良いものにしてもらえたらと思います。

最後になりますが、本年度ありす祭にご来場の皆様、そして協力してくださった皆様にあらためて感謝いたします。（学生会会長・総合教養学科2年／内藤由佳）

海洋センターでカヌーなど体験

協力の大切さを学ぶ

児童教育コースの学生は7月7日、職業研究の授業の一環として滝川市B&G海洋センターでカヌーとボートによる体験学習を行いました。目的は学習の指導法をカヌー体験などを通して学ぶとともに、児童引率時の安全指導についても認識を深めるものです。

体験前に指導員の方からそれぞれの用具の使い方、救命胴衣の機能、また体験に際しての注意事項の説明を受けました。体験に参加した学生は7人と少なかったのですが、みんな真剣に説明を聞いていました。

最初にカヌーを体験しました。カヌーにはシングルと、ペアがあり、私は2人用のペアで漕いだのですが、少しの体重移動でひっくり返ってしまいそうになるほど繊細なもので扱いが難しく、漕ぐときも2人の力が同じになるように漕がないと、行きたい方向に行けないため、協力することが大事であるとわかりました。

ボートでは、漕ぎ手と艇長に別れて役割を分担しました。漕ぎ手と艇長は向かい合わせで座り、漕ぎ手の背中側が船首になるため艇長が漕ぎ手に対して進行方向を命じます。最後には、ボートの洗い方を学びました。

体験を通して、私が教師として総合的な学習の時間にカヌー体験を取り入れるなら、仲間と協力することの大切さを指導し、自然とふれあうことで豊かな情操を育めるようにしたいと考えます。（幼児・児童教育学科　児童教育コース2年／渡辺佳祐）

ホタルの生態系と学習のあり方学ぶ

ホタルの里を訪問して

総合的な学習の時間を履修している児童教育コースは、旭川市にある西神楽パークセンターのホタルの里を訪れました。ホタルには「ヘイケボタル」と「ゲンジボタル」があり、北海道では「ヘイケボタル」が多いことを知りました。また、ホタルは陸上でのみ生息しているものだと思っていましたが、ふ化したときからさなぎになるまで、水中で暮らしていることを学びました。

実際に飼育しているホタルの卵を見せていただきましたが、淡黄色で約0・5ミリしかなく、とても小さなものでした。さらにホタルの一生を写真やさなぎなどで順を追って説明していただき、ホタルは環境の変化により減少しつつあることも学びました。また、環境悪化により減少していくホタルを守っていこうとする生徒の発案からこのホタルの里が生まれ、多くの見学者が訪問することができるようになっています。今では子どもからお年寄りまで多くの皆さんが興味・関心をもつようになり、7月末の「ホタル祭り」には、たくさんの市民が訪れる場所になっています。

今回の訪問を通して、教師は児童、生徒にたくさんの自然や環境に関わる学習機会を設けることが大切であることや具体的な体験や物事との関わりを通して、実生活の様々な課題に取り組むことを通じて自らを高め、よりよい生活を創り出していけるような授業をめざさなければならないと思いました。（幼児・児童教育学科　児童教育コース2年／伊藤千絵美）

地元滝川に恩返しを

奨学金のおかげで有意義な学生生活

私は短大部での2年間を経て、今年の4月から國學院大學文学部外国語文化学科へ編入することができました。短大時代はアルバイトをしながら、友人たちと勉学に励み、時には遊びながらと楽しいキャンパスライフを過ごしました。短大での友達とは、今でも授業などで行動を共にしています。

國學院大學では、ボランティアサークルに所属し、より実践的な国際感覚を学ぶために渋谷駅での外国人観光客へのアテンドなどを行っています。都会でしか経験することが出来ない活動が出来ました。アルバイトも短大時代から継続、ファーストフード店で働いています。

このような経験をすることが出来るのも、國學院大學・短大部及び滝川市の奨学金などの支援があったからです。地方に生まれながら多くの経験を積むことが出来ました。都会で学んだ経験を基に、私の生まれ育った滝川市に恩返しができればと思っています。（國學院大學文学部外国語文化学科3年／畑成美）

◇　◇

豊かな地域創生人材入試で入学すると、短大部の2年間、編入後の2年間、授業料の半額が給付されます。

農業の楽しさと大変さ実感

田植え体験に参加して

6月5日、小雨降る中、児童教育コース2年生は「田植え」体験を行いました。天気はあいにくの雨でしたが、十分なやる気とわくわくした気持ちで江部乙町の平澤農場に向かいました。そんな私たちを、とんぼの会、滝川おもしろ食育塾、JA滝川の皆さんが温かく、笑顔で迎えてくださいました。

田植えを経験するのは初めてという学生がほとんどで、靴を脱いで靴下のままで田んぼに入るということに、最初は戸惑いましたが、入ってみると不思議な柔らかさと温もりがあり、少しくすぐったい感触に面白さを感じました。

苗を植えるときは、一人2列から3列を受け持って型に沿って中腰で親指、人差し指、中指の三本で植えます。農家の方に教えていただいたのは、思っているよりも少し深く、最後につまむようにして泥を被せるということでした。実際には1時間ほどの作業でしたが、体は汗と泥でぐしゃぐしゃ。腰がじーんと痛みはじめた時には、米作りの大変さを実感しました。

今回の体験を通して、私たちは普段何気なく食べているお米が、農家の方々がいかに苦労して私たちに届けてくださっているのかということを少しだけ分かった気がしました。これらのことを、教員になって、子どもたちに少しでも伝えられればと思います。このような貴重な体験をさせてくださった関係者の皆様に心から感謝致します。（幼児・児童教育学科　児童教育コース2年／石川航大）

短大部の魅力を広くＰＲ

オープンキャンパス

第2回オープンキャンパスが6月22日に開催されました。あいにくの雨模様でしたが、29人の高校生が足を運んでくれました。各学科・コースで企画する体験授業では、国文学科は「ロックだぜ！現代短歌」、総合教養学科は「大学生によるまちづくり」、幼児保育コースは「音楽遊び」、児童教育コースは「夢実現！先生になろう」に全員が参加し、各学科の特色を実感しました。また、高校生が体験授業に参加している時間帯に、保護者向けの「保護者説明会」を実施し、短大部の魅力について知っていただきました。

午後からの企画は、教員によるAO入試説明会（国文学科、幼児保育コース）や学生が先導し学内施設を見学する「キャンパスツアー」に参加し、大学生活のイメージを深めました。また、家主連絡協議会のアパート管理をしている家主さんが紹介するアパート見学会も多くの高校生や保護者の方々が見学に行きました。

今後は、7月27、28日にオープンキャンパス、7月29日～31日、8月2日にはオープンスクールを予定しています。短大部を知る良い機会になっておりますので、お気軽に足を運んでください。

地域清掃と花壇整備に汗

学生と家主ら１２０人

國學院大學北海道短期大学部家主連絡協議会主催による「クリーン作戦」が6月9日に行われました。

当日は晴天に恵まれ約120人の学生・家主・教職員がグループに分かれて、学校に隣接している地域を中心に、捨てられているゴミやペットボトルなどを集めるなどの清掃を行いました。また清掃とあわせて、校門前の花壇整備も行いました。

日頃より、お世話になっている大家さん方とお話する機会があり、何気ない話をするなどとても良い機会となりました。

クリーン作戦終了後には、参加者全員で滝川の名物であるジンギスカンを、鍋を囲んで食べました。学生たちにとっては、普段あまり会話をしない学生とも会話ができるよい機会となったようです。